

まだ遅くない

葉月 一郎

(題字も)

11 火花

こういう場の空気を、なんと形容したらいいのか。

奇妙な、屈折した雰囲気が流れて、よどんだ。

正面に、会社の経営陣が七人。

対座した新聞社側が四人。

警戒心、敵意、打算、職業意識……ひとつひとつが複雑に交錯する。目にみえない火花が、音を立てて散つているような……。

「えらい雨に、なりましたな」。

口を切ったのは工場長の柳瀬であった。この平取締役も、きょうの結果の重苦しさを充分、予知しているようみえた。

「どうぞ、疑問点は、遠慮なく質問して下さい。それより前に、ちょっと、これを……」

工場長が配つたのは、会社の業務内容をしるしたパンフレットである。いかにもカネをかけたと思わせる、写



（あらすじ）昭和四十五年秋——。毎朝新聞神戸支局の戸波（岐記者は企業兵庫製鉄（兵鉄）の公害でユカたちが苦しんでいることを知り、石津支局長らの始めた公害キャンペーンに参加する）。そのころ、戸波は醉客らからままれていた兵鉄秘書課の細川亜紀子を助ける。亜紀子は、会社首脳が協議した新聞社対策などの内容を相次いで戸波に知らせ、戸波に唇を与えて「好きだ」と告げたりする。だが戸波は、素直に信じられない。公害告発の取材は七人の記者を中心に関められ、兵鉄の和久井社長らとの会見も決まる。その前日、戸波は亜紀子と一人だけの夜を持とうとするが、直前に酔ったユカが現れ、ユカと海辺のホテルで夜を過ごす。そして会見当日、支局長や八木沢記者らと兵鉄本社へ乗りこんだ戸波たちを、亜紀子は何くわぬ顔で出迎える。

「神戸と高砂と、三つの工場の内容が全部ここに紹介してあります。二十四頁をご覧いただきますと、公害対策に関する資料もおわかり頂けるはずです」

「これ、工場の見学者に渡しておられるのですね」

戸波は、パンフレットを開こうともせずに間に返した。

「これはすでにウチでも手に入れて読ませてもらいました。きょうは、こういうことでなく、具体的な被害に對

する考え方とか、将来の対策について、質問させてもらいたいのです……」

会社側のベースにはまつてはいけない。それでは「いことすくめ」の話しか出てこない。

（先制攻撃をかけて、住民ベースで進めていこう）

きのうの打合せで確認すみなのである。

案の定、工場長は鼻白んだ。

質問は工場長段階で処理、答弁してしまう。そのあとで社長や専務が演説し、国への貢献や地元対策をPRする。——筋書きは、こうだったはずである。

亜紀子が伝えてくれた「記者会見の予行演習」を戸波

は思い出す。

多少、実際とは違つてもいい、地元対策用の答弁を並べたるべきだ、と花房総務部長が進言したという。

そうなると、こちらは、現実との食い違ひ答弁を、一

つひとつ的確に指摘できるほど玄人ではない。

だが、いま被害を受けている住民の生活実感については、取材でくわしく身につけた。これを攻め道具にするのだ。

大北専務の声が荒れてきた。

「否定じゃない。甘すぎる、といつてるんです。その証拠に、住民はいま公害に苦しめられている。小児ぜんそくの患者が、いかにこの地域に多いか、専務はご存知ですか」

「そいつは、君、うちの工場との因果関係が医学的に証明されていないじゃないか。そういう質問には、応じかねるねえ」

戸波が、あとを引きとつた。

「将来の問題ですが、いまの煙をなくする、つまり無煙化で公害をシャットアウトする考えは、ありませんか」「そりや、ダメだな」

グワーンと、ひときわ大きい声が響いた。和久井社長だつた。

「そんなことは、十年、二十年先でも、できん相談だ」「全く、やる気がないということですね」

質問が、はじまつた。

練りに練った答弁が返ってくる。

ペテラン級同士の卓球試合のよう、問答はビンボン球となつて往復した。

「公害対策の設備に、会社は六十五億円もかけている」と専務たちは強調した。

「ばい煙や亜硫酸ガスの濃度は、ほぼ国の基準に近い数値に抑えている」ともいった。

「いくら力ネをかけたか、が問題ではない。被害がどのくらい減つたか、被害ゼロにするために、どう手を打つか、それを見きたいのです」

八木沢が、珍しく熱っぽい調子で食い下がつた。

「第一、お役所の決めた基準そのものにも疑問は多い。それを守つたら被害がなくなるか。工場周辺に住む人をみれば、そんな基準がいかにデータメか、すぐにわかりますよ」

「君イ、日本は法治国家だよ。国が決めたものを否定するんじゃ、話にならんね」



なった。

しかし、それは逆に戸波の闘志を刺激した。
「約束は約束として、うががっておきましょう。しかし現状は現状として書く。騒いで書きたてのではなく、冷静に分析し、掲載する。それは私たちの自由ですからね（和久井社長の頬が、かすかにゆがんだ。（書けるものなら書いてみろ））という、冷笑に近い影が走ったようにみえた。

「工場を、他へ移す。もっと人家の少ないところへ移転する、という計画はありませんか。そんな希望を住民から聞いたのですけど……」

「ない。全く、ないな」

冷笑が、嘲笑になった。

「考えてもみたまえ。ウチがここに工場を建てたときは、一面に草つ原だったんだよ。この周りの住宅は、あとから建った。君、ね、先住権というのを知つとるかね」

「よく知つてます。でも、先住権があるから、何をしてもいいってもんじゃないでしょ」

「だから、カネをかけて公害防止のシカケを充実させる、といつてあるんだ」

論議は、完全に堂々めぐりになつた。

根本的に、立場が違う。

それが、問題の根を、かみあわなくしている。

「まあ、お互いか、少しづつ、我慢する。そういうことだな」

これが結論だ、といった語調で言い放つと、社長は視線を記者たちに流した。

戸波は、さっきから石津支局長が一語も発していないのに気付いた。

そつと、その横顔に目をやる。

焦点のさだまらぬ瞳が、宙を泳いでいる。

（支局長、なにを考えているのか）

膝を突いて、発言を促そうとする。



「その代り、公害防止のシカケには、今後もうんとカネをかける。国の基準以上に減らしてみせるよ」

「具体的な数字、金額、被害者対策なんかを聞かせてほしいのですが……」

「そいつは、いま研究中だ。しかし、だよ。とにかくこのわしが減らすと約束しとるんだ。それ以上、なにもゴヤゴヤと騒いで書きたてることはないだろう」

ふとい眉が、ぐいとつり上がりてみえた。

（鉄は、国家なり）

文字通り鋼鉄のような自信と誇りが、この基幹産業の

長に満ちあふれている。

ちっぽけなマスコミのはしくれが、なにをほざいておるのか——歯牙にもかけぬといった表情が、むき出しに

それより一呼吸早く、花房総務部長が声をかけた。

「支局長さん、いかがでしょ。この辺で一応、まあ、固い話は一段落ということです……」

「え、ええ。そうですな」

「どうも、お疲れさまでした」

それが合図のよう、ドアが開かれた。

細川亜紀子を先頭に、四、五人の女子社員が入ってきた。

素早く、手際よく、卓上に並べられたのは、ビールとオードブルだった。

「たいへん失礼とは存じますが、まあ、お近づきのしに、ということで、お茶がわりにひとつ、どうぞ」花房は目礼すると、亜紀子たちにビールを注ぐよう命じた。

「いや、私たちは、勤務中ですから……」

支局長の声が届いたのかどうか、和久井はもうグラスにビールを注がせ、勢いよく飲み干している。

記者たちの側には亜紀子と、もう一人の秘書嬢が回ってきた。支局長のコップにビールを注いでいる。

つづいて、戸波の肩に、亜紀子の体が触れた。

「ほくはいいんです」

八木沢の硬い声が聞える。

戸波も、コップを伏せた。それは拒絶の意志表示である。

戸波の肩に触れたまま亜紀子の体が静止する。ぬくもりが、

何となく伝わってきそうな時間が経過する。

「社長にうかがいますが」

突然、といった感じで、支局長が口を開いた。

「こういう公害批判記事は、書いてもらいたくないとい

う心境ですか」

二杯目のグラスを傾けると、和久井社長は刺すような視線を送った。そして即座に、豪快に笑った。

「わしがどう思おうと、君たちは、書くんだろ。さつき

も、隣の記者さんが、そういったじゃないかね」

「いや、社長ご自身のお気持をうかがってるんです」和久井社長は、一瞬、硬い表情にもどった。自分でビールを注ぐと、一呼吸おいた。

「公正、正確な記事ならいい。しかし、住民の声といつても色つきが多い。アカやら黄色やらヘンなのがいっぱいおる。そのところを正しく見分けてもらいたいね」

「要するに、事実なら構わぬ、というわけですね」

「ああ、正確なら、ね」

「ちょっと待って下さい。正確すなわち会社が望んでいる内容、というのでは困るのですが……」

「わかつてゐる」

栓を抜いたビールびんが残った。

「とにかく、公正ならいい、というご意向は確かに頂戴しました。ありがとうございます」

「どういう意味かねえ」

大北専務の声が飛んできた。かなり高圧的な響きがこもっている。

「とにかく意味はありません。要するに、私たちを信頼していただきたいということです。それに……」

「それに――？」

「まさか兵庫製鉄のような大企業が、どこかへ手を回して、記事をのせないように工作したりはしないでしょ

うな」

（新聞社の切り崩しをするのが条件です）

「失敬な」

大北専務はまつ赤になつた。

亜紀子のことばが、よみがえる。

これが真実なら、専務の激怒は岡星を指されたことを意味する。

本当に怒っているとすれば、圧力工作は事実無根と解釈すべきだろう。

（しかし、どうして支局長は、この席で、それを確かめようとしたのだろうか）

支局長にも話していない。

大北専務は、腕組みすると、アゴをひいて戸波たちを睨みすえた。

「うちは、そんなケチな会社じゃない。自由に、ただし正確に、記事を書いて頂きたい。ということは、それだけだね」

しらけた沈黙が襲つた。

窓を叩く雨の音だけが、間断なく続いている。

社長の貧乏ゆすりも、止まりそうにない。花房が、とりなし顔で立上がり近寄ってきた。

「ま、そういう訳ですから、どうかお気軽にビール、あけて下さい」

それを無視するように、支局長も立上がりついていた。表情は、意外におだやかである。

「どうも、いろいろ長時間ありがとうございました。これで、失礼させて頂きます」

にこにこと、人が変わったような笑顔がこぼれている。

「また寄せてもらいます。ま、これを機会に、よろしくお願いします」

深いお辞儀である。

ひきとめようとする花房と軽い握手をかわすと、支局長は戸波たちを目で促していた。

雨足は、いつこうに衰えていない。

社旗の重いけためきを先頭に、車は支局へとしぶきを上げていた。

「きょうは成功やつたな」

支局長が、はじめて口を開いたのは、そごう神戸店の前を横切ったときだった。

「幹部の公害意識が、よくわかったからね」

「成功、といつていいのでしょうか」

八木沢が、控え目な口調でつぶやく。

「君たち、腹がたたなかつたのか」

「そりや、もう……。あれだけ汚い煙やガスをまき散らしているのに、トップが責任や罪の意識を感じていない、そのことだけで、何度もアタマへ来て……」

「そう、そう。それでいい。だから原稿も、社長や専務が発言したそのままを書く。読者は、君たちと同じようにアタマへ来る。そして、なんとか公害をなくしたいと真剣に考えるようになる。それが、われわれの狙いじゃなかつたのかい」

「そうだ。こちらの質問や追及に對して、平謝り、ご無理ごもつともと、物わたりのいい態度で終始されたら、逆にキャンペーンの進め方がむつかしくなる。戸波は、支局長の『戦略』が、のみこめたような気がした。

「しかし、なぜ支局長は、あんな質問をしたのですか」「うむ？ なんのことや」

「圧力工作です。会社が手を回したとか何とか……。実際、もうそんな事実が出てるんですねか」

表情を盗み見るよう、のぞきこむ。さきほど見かけたのと同じ、焦点の定まらない瞳が、そこにあった。

「支局長」

「……心配するな。なにもないよ」

支局長は、答えずに煙草を取り出して、くわえた。マッチがぬれているらしく、なかなかつかない。

いらだちの走る頬が、戸波にけひどく孤独に見えた。（なにがあつたに違いない）

「相手は、途方もない大企業や。これからが大変やぞ」直感が、戸波を刺す。不安が襲つてくる。支局長は、しかし視線を宙に泳がせたまま、ゆっくりとつぶやいた。

「雨が、また一段と激しさを加えていた。（つづく）



戸っ子でお店の下調べをしてから行くのでとてもいろいろな所に行けるのです。もちろん夜遅くまで飲んで

後編
記集



★そのひとの瞳からあふれ出た涙に嫁入り家具がゆらゆらと揺れて映つ

★月に何度か原稿を持って往復するとなつて散つてしまつたのです。幼い頃にみたそのひとの——。(S)

★
（大阪市西成区 小林 正介）
神戸っ子が到着すると次々に8軒でマッパンしておられます。神戸は、岡山より近いのでサイサイン買物ナド二行きたいのですが、新幹線のヤコヤコ4人のが往復するとの一円円いかれり、少しイタイのですが、日曜暖かくなり、岡山発10時半ぐらいで発ち、岡山着19時ぐらいで時々行き、元町→三宮が行きますが、足がイタクナリ、さんちかまでは無理です。全国各都市の中でも、アカヌケティエ最高ですが、センスがヨイというよりオカタククトマッティエルという感じもします。

★今月は神戸の家具を専集してみた。船大工が家具づくりを始めたといふのは、いかにも神戸らしい。アーチ型のショーケンは神戸にふさわしい伝統的な家具づくりをこれからも大切にやっていただきたいものだ。『小泉 康夫』
★いい夫人 キャララ号にバルセロナで、内で再会。碧い海、碧い空、船の旅は、頭の中をクリアーに波が走った波に洗い流し、今は夢のまた夢。
★『小泉 康夫』
★★いつも外からながめいでいた港のやしきの中をみせていたいた。のこのこびりした生活も新鮮のコンテンツ船の旅である。岸から眺めた新旧船の姿が印象的だった。

凸版印刷では阪神野田から北大阪線に乗りたのですが、この北大阪線といふのが今とき珍しい路面電車で、いよいよ古びた車体に急電でもない乗り心地で、乗客の顔ぶれもふざわしく楽しむ乗車でした。古台風八号の影響でひどいシザーライドの日曜日。それでも撮影決行と準備をしているとバツと雨が止みました。たたずみたいなホントの声があがりました。
【中村 雅子】
★木のにおいていっぱいの家具店めぐり。いろんな人からいろんな話。これらが血となり肉となる人は生きるのデス。ありがとおきのデス。



神戸三子

小小小楠貝鴨柏嘉嘉金小小岡牛梗石石乾砂青朝安
曾比
泉林磯本原居井納納井野根崎尾並野野野木奈部
徳芳良憲六健毅正元一真吉正成信豊重正
一夫平吉一玲一六治彦夫造忠朗一明一彦仁雄隆夫

津高陳田玉田田淹淹竹角砂塙新白雀阪坂古後上小
高橋 边井中宮川川中南田路谷川部本井林藤林林
和 舜聖 健虎勝清 猛重義秀 昌 時喜末英秀
一 孟臣子撲郎彦三一郁夫民孝雄渥介勝忠楽二一雄
之

神行元百村光宮宮松福深畠野南難中中西西直外竹
戸青吉永崎上田地崎井富水 沢部波西巻脇村木島馬
年哉定辰正顕裏辰高芳惣専幸主 太健準
会議三二二一 一 一 跡
所女正雄郎司二雄男美吉郎郎三還勝弘親功郎吉

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達や、神戸の番りをおとどけになりたい方は、福集室でお申込み下さい。さっそくお送りします。

1年分 一三〇〇円

6ヶ月分 一〇〇〇円

★月刊神戸っ子を毎月お読みされている神戸の諸店には、お客様までのサービスとして神戸っ子がおかれています。月刊神戸っ子をお買求めの時には左の本屋さんへどうぞ。

コウブックス さんちかタウン
ニユーハンロ
漢口堂
東洋書房
館堂
大丸新聞会館
前橋



★発行／ 49年8月1日
★編集・発行／小泉康夫
★発行所・神戸つ子編集室
神戸市生田区東町113の1
大神ビル8階
2 2 4 6 (代)
振替口座 神戸四五九一九六
領価200円 (331)

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

そば吾作 神戸市生田区中山手通2丁目3-17 TEL 242-2858

讃岐名代うどん あこや亭 神戸市葺合区旗塚通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれない 三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かっぽう花くま 神戸市生田区花陽町45
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび 悟味 西
お茶漬・おむすび
神戸市生田区北長狹通1の20 TEL 331-3848
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび
鍋もの
ふるり 里 神戸市生田区北長狹通2の1
TEL 331-5535

たこ焼たちばな 三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷 神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階 TEL 331-7770

カニ料理 婆娑羅(ばさら) 神戸市生田区北長狹通1丁目18
三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F TEL 321-6363

★西洋料理

レストラン アポロン 神戸市葺合区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 皮(あらかわ) 神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門 神戸市生田区中山手通二丁目98/99
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭 神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン セントジョージ 神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

レストラン 男爵

神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷 三宮フラワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル きやんどる 神戸市生田区北長狹通2-22
TEL 331-1183

レストラン キングスアームズ 神戸市葺合区磯波通4-61
TEL 221-3774

居酒屋風れすとらん 井戸のある家 生田新道新世纪南
TEL 331-5664

レストラン ムーンライト 三宮・生田新道
TEL 331-9554

串かつ店 和蘭陀屋 三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230

グリル・鉄板焼 月 神戸市生田区北長狹通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK 六 生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

イタリア料理 ドンナロイヤ 神戸市生田区明石町32
明海ビル地階 TEL 331-7158

レストラン ハイウェイ 神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピツツアハウス ピノツキオ 神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン フック東店 神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店 葵合区琴繕町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

レストラン ミリオナークラブ 生田区山本通2丁目5の2
レストラン 231-9393-5
メンバース 221-1162

ドリンク & レストラン ベルビュ・ドール

神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F
TEL 321-5677

フォーグエスタン ローストシティ 神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

RESTAURANT & BAR ゴックスタッド 生田区山本通3丁目18
回教寺院前 TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 ティファーナ 神戸市生田区中山手通1丁目4/12
パールゴーポラスビル1F TEL 242-0043

ドイル・風 音楽レストラン コーベ・ローレライ 生田区北長狹通6丁目39
TEL 371-0086

★喫茶 宮水のこーひーにしむら珈琲店 中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669

北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467
(会員制) 3F 事務所 TEL 242-1880

喫茶・レストラン バローナ 神戸三宮サンプラザ地下 TEL 391-1758
トアロード店 TEL 391-1210

喫茶 ガーディニア 神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F
TEL 321-5114

珈琲モーツアルト 神戸市生田区山本通2丁目98グランドマンション1F
TEL 241-3961

★club 阿似子 神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331-6069

club 飛鳥 神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

DRINK IS AN ART OF LIFE エドワーズ俱楽部 神戸市生田区北長狹通1丁目28
小ワイトローズビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300

club 小万 神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

club さち

神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

クラブ 千 神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

club なぎさ 神戸市生田区北長狹通2の1 TEL 331-8626

club 蘿^ふき 神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

クラブ ぶーげん 三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

club Moon Light BAR TEL 331-0886-391-2696
Club TEL 331-0157

クラブ るふらん 神戸市生田区北長狹通1丁目53
TEL 331-2854

★STAND & SNACK

スタンド 英国屋 生田区下山手通2-6 相互タクシー横
TEL 331-1100-331-6600

洋酒ハウス 雜貨屋 生田区下山手通2丁目8の6
(生田新道相互タクシー横上) TEL 321-0260

スタンド グラムール 生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

SNACK MATSUMOTO 神戸市生田区中山手通1丁目32-3
曾根根ビル1F TEL 241-5470

カクテルラウンジ サヴォイ 高架山側 テキの店北
TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス 神戸市生田区下山手通1丁目32
PHONE 078-241-7320

スナック ピジービー 神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

スナック ボルドー 生田新道浜側中央KCBビル1F
TEL 331-3575

スナック シーザー

生田神社西門伊藤ビル地下
TEL 331-1429

洋酒の店 キヤンティ 神戸市生田区北長狹通2丁目3
TEL 391-3060-391-3010

スープとパン店 キヤンティ北店 神戸市生田区下山手通3丁目8-9
TEL 331-3661

DRINK SNACK スネカジリッズ 神戸市生田区下山手通2丁目
水堀ビルB1 TEL 391-8708

Stand&Snack サントノーレ 生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 391-3822

Salon de roulette サントノーレ 神戸市生田区中山手通1丁目24-7
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710-221-3886

案内洞でつさん 神戸市生田区北長狹通1丁目258
TEL 331-6778

STAND マシュケナダ 生田区下山手通2丁目ちやいな屋地
TEL 331-55

スナック GASTRO 神戸市生田区中山手通3-20
トアマンション TEL 231-0723

スタンド クラブ・ガーデニア 神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329

SNACK 山の手 神戸市生田区中山手通1丁目
ソニビル1F TEL 221-3637

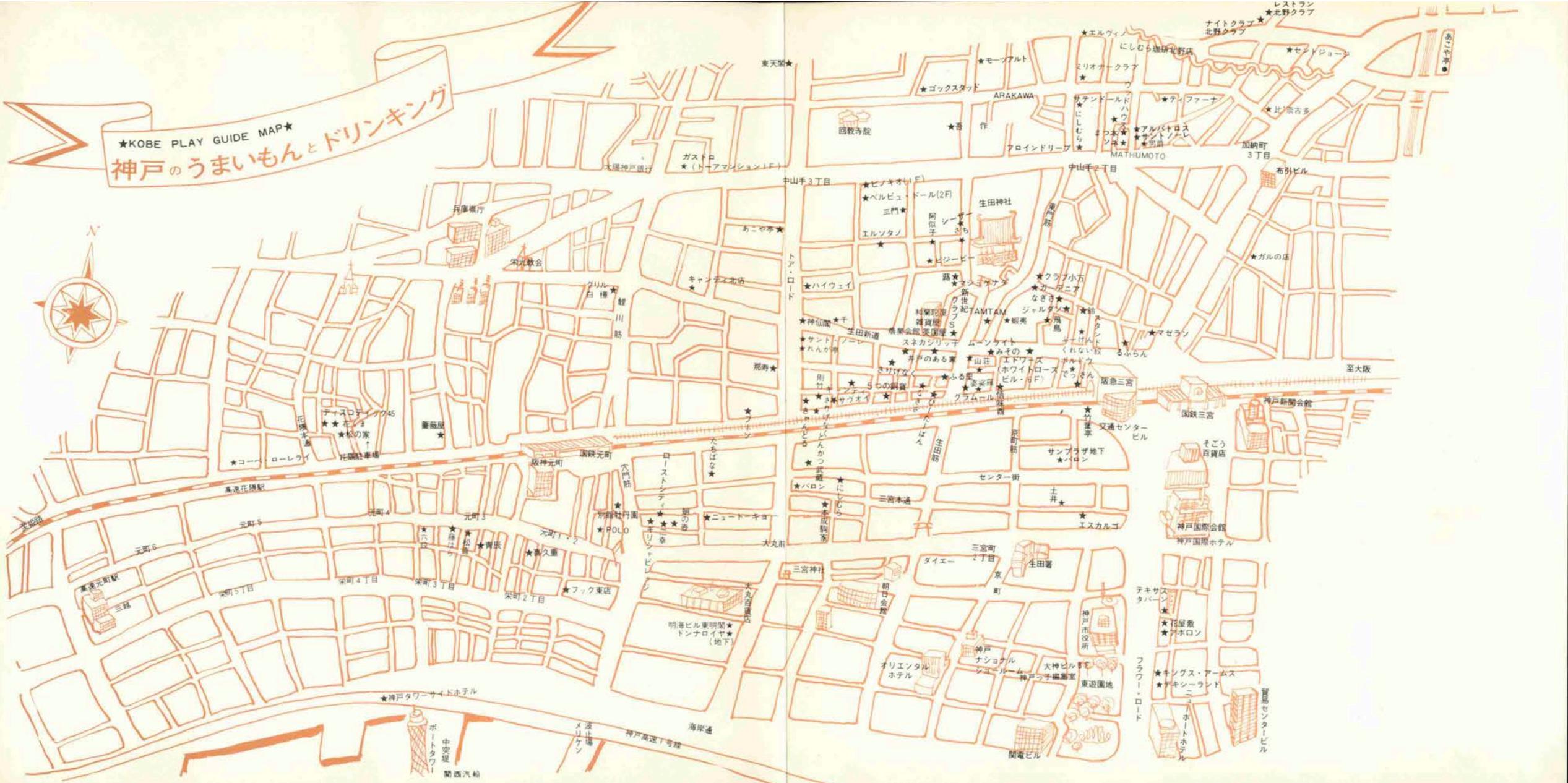
スナック 比奈古多 神戸市生田区北野町1丁目143
TEL 241-1306

サロン アルバトロス 生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231)3300

スナック エルソタノ 生田区下山手通 TEL 331-6620

スナック 山莊 神戸市生田区北長狹通1丁目22
TEL 391-5823

スタンド 紋 神戸市生田区北長狹通1丁目41-1レンガ筋
TEL 331-8858





baLlon antique series

XXII 七宝・象牙

澤井 修一

〈元町電機・元町美術社長〉

「七種の珍宝をしづめたごとく精巧華美な、という名をもつ七宝焼ですが、刀の柄に七宝を使ったものは珍しく、残っているのは数少ないということです。象牙は、生きたアフリカ象に細工をほどこしたものなのでツヤがひと味違うでしょう。バロンのこの店もインテリアがぜいたくでコーヒーがおいしく飲めますよ」

トアロード バロンにて
カメラ／米田定蔵



トアロード バロン

★英國風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄



▲望月美佐先生の書道教室

●昼間のお暇な時間を趣味のお稽古で楽しくすごしませんか？

クラブ小万文化教室で生徒を募集しております。男女を問わずどなたでもお気軽にお越し下さいませ。

金曜日をのぞく毎日午後1:00~3:00まで。

月、日本舞踊 花柳芳一勢先生 木、英会話 ジム・R・カスバート先生

火、着付 太和田操子先生 土、小唄 吉野派家元

水、書道 望月美佐先生



CLUB
小万

岩本起代子

生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638, 4386



暑中お見舞い申し上げます



落着いた木彫ムードとエレクトーンの音色で
“涼しく” おもてなしをいたします。

営業時間・午前11:00～夜12:00 定休日・毎週水曜日

神戸市東灘区御影石町3丁目メゾン新御影(御影公会堂前) TEL(078)841-3591



コーヒーの味は水によって違いますね。通になるほど味に厳しくなるもんですが、軟水を使ったコーヒーは喜こばれています。
(コンコード)



CAFÉ DE CONCORD

生田区三宮町2丁目35
☎ 331-6855

口ざわりが違うでしょうと
お客様にいいますと、成程な
とおっしゃいますね。
(シャレー)

軟水を使った反響ですか？
水割りには絶対ですね。おかげで、
ウイスキーの出が増えています。
(MATSUMOTO)



シャレー TEA & SNACK
Chalet

芦屋市朝日ヶ丘
レックスマンション1F
☎ 0797-31-6633



K
Tomorrow's World Today

MATSUMOTO

生田区中山手通1丁目32-3
曾根ビル1階
☎ 241-5470

- 水がおいしく変わる
- 不景気を乗り切る
- 欧米では常識
- 新しいインテリア
- 口でとろけるフィル
ターのかかった味

} GS

お問い合わせは

〈総発売元〉

KANSAI DIVISION CO INC.
GS事業部 TEL. 078-241-3830



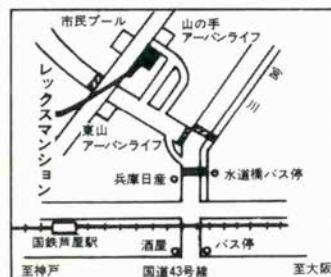
★一年で最も暑い季節になりました。ギラギラと太陽が照りつけ、体力の消耗も激しいとき。こんなときこそおいしいものをモリモリ食べて体力をつけたいものです。何を食べたらいいのかなあ……と迷うのは野暮なこと。“ゴックスタッド”へ行けばいいのです。仲間が揃えば、名物“かぶと”の周囲に陣取って、マトン、ポーク、チキンなど好みの肉や魚と野菜をジュンジュン焼いて食べてみよう。暑さでダランとしていた身体の隅々に新たな力の湧き出ること間違いなし。食事のあとは静かに流れる民族音楽に耳を傾けながらアカアヴィットでも楽しめましょう。夏宵もこれまた価一刻千金なのです。

☆かぶと焼き各種(マトン、ポーク、チキン、ビーフ、えび、いか、サーモン、ミックス)￥600~800 にしん、さけ、うなぎのくん製 各￥1,000
スモー・シュットラブル(スウェーデン風肉ダンゴ)￥1,000 アカアヴィット￥400 水割￥400

6:00P.M.~2:00A.M. 水曜日休み



ゴックスタッド



シャレー

KOBE DRINKING GUIDE

★暑中お見舞申しあげます。

本当に暑い日が続きますが、あなたは、今年の夏、どちらの方へいかれましたか。ハワイでは、それとも、グアム……。何っ!! 須磨の海水浴場で毎日一人淋しく体を焼いて夏をすごしているって。それは悲しいこと。夜になつても体が熱くボカボカしてはいませんか。そのときは、ひんやりすずしい“ウッドハウス”へ来てください。ビールでもグイッと一杯あければ、涼しくなることうけあい。夏の日の“ウッドハウス”、またひと味ちがいます。お待ちしております。黒ん坊様!

☆暁(11:30A.M.~7:00P.M.) コーヒー￥150 紅茶￥150 ビラフ￥250
サービスランチ￥300 夜(7:00P.M.~4:30A.M.) ビール(小)￥300
水割り(OLD)￥400 フィズ￥500 おつまみ￥100 平日11:30A.M.~4:30A.M.、日曜5:00P.M.~0:00A.M. 第1・3日曜日休み

ウッドハウス



サンソウ



ドキッとしたハブニングのある店

一年で一番暑い季節。何となくダランとしてしまいます。しかし、ここ“山莊”へ一步足を踏み入れると、とたんにスッキリシャンとしてしまいます。お客さまと大いに楽しく一緒に遊ぼうじゃないか。マスターの上松さんの哲学が店中に行き届いているからなのです。店は20代、30代のホワイトカラーのたまり場。底ぬけに明るく、リラックスした雰囲気は最高です。掛け値なしに神戸独特のムードがビタリの店なのです。バンドギターの調べにのって、自慢ののどを披露すればこれまた楽し。可愛い子チャンを混じえてワイワイガヤガヤ……。ドキッとするハブニングも充満しているのです。ホラ、今夜も何かが起こりそうですよ。☆パーティ・コンバ・クラス会などにもご利用下さい。

6:00P.M.~2:00A.M.

★シャレーとはスイスのチロル地方の山小屋のこと。TEA&SNACK“シャレー”は、芦屋の山の手の閑静な場所にある山小屋風のシャレたお店です。ふたりでドライブにでかけられたとき、ショットお立ち寄りにならぬませんか。店はいつも若い人たちでいっぱいです。昼は落ち着いた雰囲気のなかで珈琲を、夜ともなればギターの調べに耳をかたむけながら香り高いブランディを楽しんだり、愉快に踊ったり、夏の夜を楽しむお過ごしになります。今日は可愛い女の子を中心に店のスタッフが勢揃い。にぎやかな店内に花をそえています。一度お立ち寄り下さい。

☆コーヒー￥200 ビットア、軽食あり。

9:00A.M.~12:00A.M. 年中無休

一の谷

～伝説は暮色の夏の夢～

小泉 八重子

暮れなすむ夏の塚より姫生まれ

少年ら渓谷たにに夕陽の蹄を見る

父子の夏帽蝶にまぎれし三の谷

いまはロマンの背後の山の鉄線花

松と白帆と失いし色遠きかな



カメラ／藤原保之